

「桜の樹」 ニュースレター vol 5

岡倉天心記念 がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」 2021.10



『真の国際人』～「賢明な寛容」を持ち、「能力を人の為に使う」人物～ 樋野興夫

内村鑑三（1861-1930）の『代表的日本人』（1894年）、新渡戸稲造（1862-1933）の『武士道』（1900年）、岡倉天心（1863-1913）の『茶の本』（1906年）はともに英語で書かれ、日本の文化・思想を西欧社会に紹介したものである。英語で、日本（人）を深く、広く、丁寧に 海外に紹介出来た人物は、この 3人 ではなかろうか！ この3人は、「英語力 と 教養」を備えた 明治以降の 日本が誇れる人物である。明治時代の3人の「格調高い英語力」と「深い教養」と「高い見識」には驚くばかりである。100年後の現代に生きる我々は、「真の国際人の定義」を再考すべき時であろう。『真の国際人』とは、「賢明な寛容」を持ち、「能力を人の為に使う」人物であり、明治維新以降、「内村鑑三・新渡戸稲造・岡倉天心」は、『真の国際人』のモデルであろう！

桜紅葉

朝晩涼しくなり、桜の樹は色づきはじめています。ゆっくり読書をして過ごすのに適した季節になってきました。皆様のおすすめの本を紹介していただきました。



樋野先生が20年前、熟読された『茶の本』 岡倉天心(覚三)著
岩波文庫

うらかわさまおすすめ

秋とは言わず読書が好きで、日頃からよく読みます。巣鴨カフェに参加させていただくようになり、各人のお話に心を動かされ、同種の間を受けた本が棚にあったなど再読したりしています。すこしご紹介いたします。

「夜と霧」 V.E.フランクル

心理学者の強制収容所での体験、極限状態ゆえに立ち上がる生きる意味への問いと答え。



「こころの処方箋」 河合隼雄

困った時、わからない事がある時いつも河合隼雄氏に聞いてみることにしている。

「死という最後の未来」 石原慎太郎/曾野綾子

共に 90 歳水と油の 2 人。噛み合わない対談、エピソードが面白い。

「絶望名人カフカの人生論」 カフカ/頭木弘樹

カフカのネガティブ発言が炸裂。度が過ぎると笑えて清々しい。

「死ぬ瞬間をめぐる質疑応答」 E.キューブラー・ロス

死は身近なものはずなのに考えないようにしている節がある。どうしてなのか?わからないなりに引き続き考えてみたい。

「あふれでたのはやさしさだった」 寮美千子

刑務所の少年たちの詩が掲載。電車では NG。突然の涙の落下にご注意。

「クララとお日さま」 カズオイシグロ

AI の人工親友をわが子に買い与え、脳に学力向上の治療をする、社会の分断や格差、IT 化が進んだ近未来。無垢な AI ロボットのクララの語りが進むせいか、朗らかで温かい児童文学のような香りです。でも、飽きさせないのは大人のエゴが見え隠れするから。

『終末期医療のあり方』 あたまは波平

「日本人の 2 人に 1 人は、がんに罹る」と云われている。がんは、大人だけでなく子供も罹ります。大阪市に子供のための『終末期医療』をサポートする施設が日本で初めて設立されたことが書かれた石井光太著「こどもホスピスの奇跡」(副題として『短い人生の「最期」をつくる』)という本が出版されました。

この本を知るキッカケになったのは、NHK ラジオ第 1 で毎週金曜日午後 9 時 5 分から始まる『高橋源一郎の飛ぶ教室』という番組でした。50 分の番組で、前半は作家の高橋源一郎が紹介したい本を取り上げ、後半は高橋源一郎がゲストと本についてトークします。

この本は、2020 年 12 月 11 日の放送で、高橋源一郎が紹介しました。翌日、この本を購入し読みました。

こどもの生きようとするエネルギーと共に勉強や遊びを通して家族などとの短いけれど何気なく触れ合うことが楽しく幸せに思え、子供だけでなく家族にも大切であることを考えさせられました。

この考え方は、ベッドの上で苦しむことなく死を待つ終末期医療にとっても必要ではないでしょうか。



「体力をつけよう」と ミニオン

最近カラダが重い。筋力が無くなったせいだ。家に筋力トレーニングマシン。

「ワンダーコアがあったじゃないか。」腹筋が簡単に作れるやると軽い。軽い。時間がある

とやっていました。1ヶ月すると。お腹が痛い。1日すると場所が動いていく。今までの場所は全然痛くありません。この痛み突然やってくるのです。「若い時にスポーツやっていた時の痛みに似ている」筋肉痛かなと思い接骨院に行くと 腹筋のやりすぎ。マッサージに行くとあまり効果無い。そして次の日、激痛。「これは変だ。総合病院に行こう」その日に入院でした。沢山の検査をしたのですがどこも異常が見つかりません。医師が首をかしげるばかり。自分では1年前「骨髄移植をしていたので、それが関係あるのかな？」医師「それとは違うみたいですよ」酸素吸入。「空気が薄いです」ボンベを何時も連れて院内を(トイレなどに行くとき)・・・痛みなくならず。点滴をうち、効果ありません。最後にステロイド点滴。これがテキメン。次の日から段々良くなり、入院1ヶ月。今は完全復活。「歳とると痛みが遅くやってくる」私には勘違いだったのでした。



「チャウチャウ犬のような顔になろう」 河原井 友香

お久しぶりです。巣鴨カフェにお邪魔して、2年が経とうとしています。皆様、お元気ですか？

母が、がんになり樋野先生の本や映画でカフェを知り、山本さんに会いました。母にとって、がん哲学カフェは、憩いの場、生きがいでありました。母が亡くなって、もうすぐ1年。辛いな、寂しいな...という気持ちのある一方でがんカフェの方々と関わるとほっとします。コロナ禍で、「辛いな、しんどいな。」と色々うまく行かないことばかりの世の中。ふとした時、樋野先生の「チャウチャウ犬のような顔になりなさい。どんな辛いときでもあんな風に笑っていなさいね。」と面談でおっしゃった言葉を思い出しました。山本さんは、ご自身も体調悪く、周りの方々に気をかけて下さり、ニコニコと笑顔の絶やさない素敵なお方です。素敵なお笑顔に、母と私以外にも悩んでいる方々は、救われたと思います。マスク生活で、笑えていないなあ・・・チャウチャウ犬のように、クシャッと笑ってよう！！コロナが落ち着いて、カフェでマスクなし！でチャウチャウ犬のような顔して参加したいと思っております。笑
山本さん、皆様、お身体に気をつけ下さいませ。元気に会える日を楽しみにしています。



ミニオン語は難しいけれどもとにかく、回復されてよかったです！ 順調とかがっていたので緊急入院されたときは心配しました(涙)今は「スポーツの秋」あらためて「食欲の秋」満喫中のお写真が届き安心??



ゆかちゃん、お手紙ありがとうございます。巣鴨カフェのお手伝いもして下さっていたお母さん。たくさんのお話を教えていただきました。カフェには、お母さんのことを知っている方がたくさんいます。ゆかちゃん、また会おうねえ。どんなゆかちゃんも大歓迎です

彼岸花 花言葉 再会・また会う日をたのしみに

編集後記 さくら(かえる)

夏の暑さが落ち着き始め、朝晩少し肌寒くも感じるようになってきました。「読書の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」「芸術の秋」・・・ニュースレター vol 5 は、皆様それぞれ秋を感じるようなお便りやお写真を寄せてくださいました。

ハロウインの切り紙は、A.S.さんが送っていただきました。他にも数種類の切り紙を送っていただきました。ホームページの方でご紹介させていただきます。

これから秋の深まりとともに、樹々の色合いがさらに変化する自然美しい季節。皆様の身の回りでも、それぞれの秋をみつけてみてはいかがでしょうか。発見したら、ぜひお写真や原稿をお寄せいただけたら幸いです。



A.S.さんの「芸術の秋」
ハロウイン切り紙

編集：岡倉天心記念 がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」 山本 ひろみ

TEL 090-8501-0826 gantetu_sakura@yahoo.co.jp

<https://sugamo-sakura.com/>

後援：一般社団法人がん哲学外来

